



和佐だより

2学期臨時号

和歌山市立和佐小学校

令和6年(2024年) 8月26日発行

(学校長) 結城 将光

2学期の開始です！！



まず冒頭に、1学期の終業式での私の話が長すぎたことを児童の皆さんに謝ります。こんな子ども達に育ってほしいという思いがあって長くなりすぎました。暑い中だったのにすみませんでした。

さあ、児童のみなさん、いよいよ2学期が始まりました。

どうでしたか？ 夏休みは楽しく有意義に過ごせたでしょうか？夏休み期間は36日間ありました。

さて、今年は「10年に1度の酷暑」と言われていますが、暑い日が毎日続いたと思います。また、8月8日には、宮城県日向灘においてM7.1(震度6弱)の地震が発生しました。その際、初めて気象庁より南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意報)の発表がありました。和歌山県や市でも災害対策本部が設置され、南海トラフ地震への危機的意識が大きくなりました。しかし、15日に解除が発表され本当に安堵しました。

近年、大きな地震が各地で起こりだしたので、地域や保護者の皆様もたいへん不安に感じていることと思います。東日本大震災で提唱された『津波避難の3原則』は、「想定を信じるな!」・「最善を尽くせ!」・「率先避難者たれ!」の3つです。これは、津波だけの原則ではなく、自然災害すべてに通ずる心得だと思います。

学校においても避難訓練はしていますが、想定通りには実際はなりません。肝心なのは、その時、その状況で、はたして自分はどうしなければならぬのか?を瞬時に考えられる能力です。その一瞬の行動で、その人の運命が分かります。地震はいつ起こるか?誰も分かりません。「いつ」「どこで」「何をしている時に」「誰と」など、その時の状況は予想が付きません。突然訪れるのが地震です。地震だけは、台風や洪水のように予報があって準備できる時間があるものではありません。

今、本校の5年生は「防災」について総合的な学習の時間で勉強を進めています。冒頭でも書きましたが、このような地震の危険が高まっている今、子ども達が進めている学習は、正に「生きる力」を育む学習だと思っています。こうした学習は、きっといずれ来るであろう南海トラフ地震の時でも、今学習している知識が必ず本人を助ける術になるだろうと思います。来ては欲しくはありませんが、「備えあれば憂いなし。」で、危機の際に、生きて働く行動がとれると信じています。

話は変わりますが、この夏休みにテレビを騒がせたのはやはり2024パリオリンピックでした。私もよくテレビで日本選手の活躍を観ていました。獲得したメダルも、金20・銀12・銅13(計45個)の素晴らしい記録でした。選手たちは、この一瞬の競技のために練習をし、体調を万全な形に調整して大会に臨んでいます。その結果はどんな形であれ、日の丸を背負って国の代表として戦ってきているので、結果はどうであれ賞賛すべきではないでしょうか。それを、SNSでは誹謗中傷する人がいることに憤りを感じました。

誰しも失敗したい、負けたいと思って挑戦する人間など居ません。いろんなプレッシャーの中で、いい結果を残したい、今まで積み上げたものを成就したい一心でやっています。その結果が悪かったといって責める人間の気が知れません。

それは、学校活動でも同じことが言えます。友達が、やる気を出してやった行いを、失敗したときに責められれば、もう二度と挑戦しようとは思わないと思います。学校では、「友達の頑張りを結果はどうであれ、皆さんで褒めたり、慰めたりしてあげてください。」とよく話しています。「言葉の力」は大きいものです。言霊(ことだま)と言われるように、言葉によって人は作られるものです。だからゆえに、和佐の皆さんは、全ての子が挑戦し成長できるように、相手を伸ばす「言葉」を使えるようにしてください。それが延いては自分も伸ばす言葉となります。

では、今日から2学期、失敗しても恐れず何事にも挑戦していきましょう。他の人たちも応援してあげましょうね。

最後に、地域の皆様、保護者の皆様、2学期からもご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(校長 結城 将光)

